

平成21年度 上期（第6回） 「M-1グランプリ」報告書



“小さな気づき” から “大きな成果” まで、
日々の業務を行う中で実践した取組みの成果報告です。

平成21年10月

浜田市総合調整室

1. 「M-1 グランプリ」とは

市民へ質の高い行政サービスを提供していくためには、職員が前向きにやる気 (Motivation) を持って業務に取り組むことが不可欠です。

同時に積極的に業務に取り組み成果をあげた職場 (職員) を評価することが重要であり、評価を通じた組織全体の活性化 (やる気の相乗効果) をはかることが重要です。

このため、浜田市では、平成19年1月から“小さな気づき”から“大きな成果”まで、日々の業務を行う中で職員が実践した取組みの成果を募集し、優秀なものについては、市長 (Mayer) が職場を表彰する「M-1 グランプリ」を展開しています。

事業の名称 職員のやる気 (Motivation) を高め、市長 (Mayer) が職場を表彰するという事業趣旨から、それぞれの頭文字「M」をとり、「M-1 グランプリ」という名称に決定しました。

2. 第6回「M-1 グランプリ」

「M-1 グランプリ」は、対象期間中に取り組んだ (又は成果の出た) 業務等を対象に、庁内募集を行い「職場単位」で成果報告をしていただきます。

報告のあった成果について、市民サービスへの寄与度・事務改善への貢献度・先進性等を、課長会議において審査し、最も優れた成果に「M-1 グランプリ (最優秀賞)」を授与しています。

第6回「M-1 グランプリ」は、平成21年度上期に実施した取組みを中心に、以下のとおり、6件の成果報告をいただきました。

● 第6回：平成21年度 上期 (平成21年4月～平成21年9月)


報告件数： 6課6件

最優秀賞： 「救急患者等に対するサービスの向上、職員のスキルアップを目指した自主研修」
(消防本部)

取組概要： 災害現場における聴覚障害者等との円滑なコミュニケーションを図れるよう、専門の外部講師を招き、必要な情報を確実に伝え、聴き取るための自主研修を開催した。自主参加にも関わらず、96%の受講率となっている。




第6回成果報告一覧 (受付順、詳細は次ページ以降の報告書参照)

- (1) 議案書作成と配布の見直し～情報の共有化と経費削減をめざして～ (総務課)
- (2) 救急患者等に対するサービスの向上、職員のスキルアップを目指した自主研修 (消防本部)
- (3) 定額給付金給付事業・子育て応援特別手当給付事業 (企画課)
- (4) 長沢倉庫を活用して創業者支援～長沢倉庫の劇的ビフォー・アフター～ (産業政策課)
- (5) 住民が知恵しぼり 「健康で安心して暮らせるまちづくり」に挑戦 (旭支所市民福祉課)
- (6) 父親の育児支援～お父さんと子どものふれあいを大切に～ (子育て支援課)

<p>(1) 担当部課</p>	<p>総務部 総務課</p>
<p>(2) タイトル</p>	<p>議案書作成と配布の見直し ～情報の共有化と経費削減をめざして～</p>
<p>(3) 取組概要</p>	<p>議会議案書の作成については、短期間に大量の印刷製本作業が必要であり、議案書作成にあたる総務課をはじめ、予算書や決算書の作成に当たる財政課や会計課など、担当課の大きな負担となっていた。</p> <p>また、執行部への議案書配布は課長以上の管理職が対象であり、それ以外の職員は議会の情報を得る機会が少ないという状況であった。</p> <p>そこで、このような状況を改善するため、平成 20 年 9 月議会から次のとおりとした。</p> <p>【配布手段】</p> <p>製本の外に議案書・資料をPDF化し、庁内 LAN に掲載</p>  <p>(庁内 LAN の画面)</p> <p>【製本部数】 230 部→135 部 (95 部減:議場出席者等に配布)</p>
<p>(4) 成果</p>	<p>○議会情報の共有化(全職員) ○議案作成に係る時間及び経費の削減 ○議案記録のデータ化</p>
<p>(5) 成果詳細</p>	<p>☆庁内 LAN の閲覧回数 通算 8,000 ヒット (追加配布分も含む、21 年 9 月議会まで)</p> <p>☆印刷経費等の削減 通算約 35 万 2 千枚分の用紙及び印刷代の削減 (21 年 9 月議会まで) 年間のべ 100 時間の作業時間の軽減 (各課合計推定)</p>
<p>(6) 備考</p>	<p>職員が個別に必要部分を印刷した経費は不明</p>

(1) 担当部課	浜田市消防本部
(2) タイトル	救急患者等に対するサービスの向上、職員のスキルアップを目指した自主研修
(3) 取組概要	<p>(目的): 消防職員として、聴覚障害がある(聞こえない・聞こえにくい)救急患者等に対し、救急現場等において必要な情報を確実に伝え、また聞き取るための研修</p> <p>(研修会の開催): 8月11日～8月28日まで間、4回開催(各1時間30分)</p> <p>(講師): 島根県西部視聴覚情報センター 職員 浜田市聴覚障害者協会 会長</p> <p>(受講率): <u>96%(自主参加)</u></p> <p>(参考): 浜田市緊急FAX 登録者 101名、緊急メール登録者 6名</p>
(4) 成果	救急患者に対するサービスの向上、職員のスキルアップ・モチベーションの向上
(5) 成果詳細	<p>研修当初は、単に救急業務等において必要最低限の手話をマスターし、聴覚に障害がある救急患者等とのコミュニケーションが取れば、救急隊員・救急患者双方がより円滑な救急対応が出来るものと考え研修に参加しましたが、実際の研修において、聴覚に障害がある方にも、生まれつき聞こえない方、中途失聴者、聴覚と視覚に障害がある方等があり、単純には対応が出来ないことを学び、専門の講師先生から、いろいろな手段によるコミュニケーションの方法を教えていただきました。</p> <p>聴覚に障害がある救急患者の方に対応することは、ごく稀ではあるかも知れませんが、一般の健常者の方よりそのようなときの不安はいつそう大きなものがあると思います。その時に今回の研修が少しでも活かされ、救急患者への対応がより良いものになればと考えています。</p> <p>着眼点: 職員が研究を自己啓発、市民サービスの向上と捉え、積極的に参加している。</p>
(6) 備考	経費は、講師に対する交通費

(1) 担当部課	企画財政部 企画課
(2) タイトル	定額給付金給付事業・子育て応援特別手当給付事業
(3) 取組概要	<ul style="list-style-type: none"> ・実施本部立上げ (12/24)、プロジェクトチーム立上げ(1/20) ・専任職員辞令交付(2/5) ・実施本部事務所開き (2/9) ・申請書一斉発送(3/16) ・受付開始(3/16)、受付相談窓口 1 階ロビーに設置(3/18) ・初回口座振込完了(3/24) ・受給促進ハガキを発送(6/8) ・未申請世帯戸別訪問開始(8/17) ・締め切りチラシ全戸配布(9/1) ・申請書受付締め切り(9/16)
(4) 成果	迅速に、正確に、親切に事業費 10 億円・処理件数 27,000 件を適切に執行了。
(5) 成果詳細	<p>①給付金管理システムを外部委託することなく、現行の住基システムを基本とした独自システムを内部で構築し、早期給付及び経費削減に寄与した。</p> <p>②国が示した既存様式にとらわれず、申請者にとって優しく分かり易い様式を独自開発し、併せて市が保有する口座情報の活用により添付書類の簡略化を図った。</p> <p>③申請書類の封入作業は、4 人構成の封入チームを 9 チーム編成し、スピードを求めながらも確認を怠らない作業工程とし、申請書類の封入ミスの抑制に努めた。</p> <p>④早期給付を願う市民の要望に応えるべく、県内 8 市で一番早い給付（初回振込日）を行った。</p> <p>⑤全国的に振り込め詐欺や大きな事件・事故が危惧されるなか、CATV、防災無線及びチラシ等による啓発活動や申請期間中の電話対応等に留意した結果、市内での振り込め詐欺など事件・事故の発生を防止した。</p> <p>⑥申請期限の約 1 か月前から、未申請者に対する戸別訪問を全職員により実施し、細やかな対応をした。</p> <p>⑦給付金管理システムの内部構築から始まり、申請書類封入作業、申請受付事務、市民への助言・助力、戸別訪問の実施など、あらゆる段階で全庁全職員を挙げて取り組んだ結果、子育て応援特別手当の 100%支給を実現した。また、定額給付金は 99%を超える支給を実現した。</p>
(6) 備考	

(1) 担当部課	産業経済部 産業政策課
(2) タイトル	長沢倉庫を活用して創業者支援～長沢倉庫の劇的ビフォー・アフター～
(3) 取組概要	<p>経営基盤の脆弱な起業間もない事業者を支援するため、関係各課（管財課・観光振興課（観光協会）、産業政策課（はまた産業振興機構））で協働して、管財課所管の普通財産を整備し、事務所として貸し付け出来る状態にした。</p> 
(4) 成果	<p>部局を超えた協働により起業家を支援するとともに、市有財産の有効活用を図ることができた</p>
(5) 成果詳細	<p>貸し付けを行った物件（長沢倉庫）には、庁内各課の物品が詰め込まれたままの状態でした。</p> <p>そこで、管財課、観光振興課（観光協会）、産業政策課（はまた産業振興機構）が協働で、平成21年1月29日、倉庫の整理整頓を行い、3月1日に無事貸し出すことができ、創業者支援のみならず、市有財産の有効活用（家賃収入）も図ることができました。</p> <p>現在では、入居された事業者さんの事業も軌道に乗りつつあります。</p> <p>また、今回の活動は、部局を超えた連携により実現したものであり、関わった各課スタッフそれぞれの“動機づけ”・“モチベーションアップ”につながったものと考えております。</p>   <p>ビフォー</p> <p>アフター</p>

(1) 担当部課	市民福祉部 旭支所市民福祉課
(2) タイトル	住民が知恵しほり「健康で安心して暮らせるまちづくり」に挑戦
(3) 取組概要	<p>少子高齢化、過疎化が進む中「健康で安心して暮らせるまち」の実現に向けて、住民主体型の健康なまちづくりの取り組みを始めた。取り組みに当たり、公民館を中心として地域の各種団体、個人、旭支所の関係課、浜田保健所、島根大学など関係機関と連携をとり「健康な地域づくり計画の策定及び推進体制の確立」に向けた取り組みを支援した。</p> <p>【実施地区】 ・今市地区（人口:1500人 世帯数:654戸 高齢化率:28% 坂本・今市・丸原の3自治会）</p> <p>【取り組み内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 井戸端会議（年5回、参加者数1回あたり40人程度） 「健康で安心して暮らせるまち」にするために、自分たちの地域で実現すべき目標やその実現に必要な条件など、住民が知恵を出し合って話し合う。 ② 井戸端会議通信の発行（年5回） 話し合いの内容について自治会住民に共有してもらうため全戸配布する。 ③ 地域健康づくりアンケート調査（町内全域を対象:700人配布 回収率:82.1%） ④ 健康な地域づくり計画策定委員会（年4回） 自治会、婦人会、老人クラブなどの組織代表者で構成し、井戸端会議で出された意見を集約・検討し、健康な地域づくり計画書づくりを行う。 ⑤ 事業検討会（年11回） 浜田保健所・島根大学・旭支所内各課・公民館等で構成し、事業の進行管理・運営・スケジュール調整等を行う。
(4) 成果	「地域の課題を解決する力は地域の中にこそある」ということに気づき、自主性がめばえる（今市地区まちづくり推進委員会が設立）
(5) 成果詳細	<ol style="list-style-type: none"> ① 「健康なまちづくり計画書」策定 「健康づくりは生活づくり 生活づくりは地域づくり」の視点で作成された、地域の夢を描いた地域振興計画になる。 ② 住民意識に主体性がめばえる 地域のあるべき姿やどう解決したらいいかをみんなで共有することが大事であることに気づき、そのことで住民の意識のパワーが生まれ、主体性がめばえる。 ③ 地域づくりを担うリーダー発掘 井戸端会議出席者は、人が集まり知恵を出し交流する楽しさを実感し、「してもら地域づくり」から「していく地域づくり」の意識の変化につながり、この計画の推進リーダーとなる。 ④ 「今市地区まちづくり推進委員会」の設立 今市公民館を中心として既存の団体・組織と行政が協働して、健康づくりも含めたまちづくりを推進していく体制がスタートする。 ⑤ 支所各課の連携強化 計画の推進には、支所各課と情報を共有し連携して取り組むことの必要性を認識する。
(6) 備考	地域での健康づくりの推進は、今市地区をモデルとして他の4地区にも拡大を進めている。

(1) 担当部課	市民福祉部 子育て支援課 子育て支援センター「すくすく」		
(2) タイトル	父親の育児支援～お父さんと子どものふれあいを大切に～		
(3) 取組概要	<p>【背景】 子育ては、父親と母親が共同で取り組むことが大切。しかし、現実には、母親への育児負担が多く、子育て支援センター利用者の中にも育児疲れの母親が見受けられる。また、父親が子育てをしたいと思っても「子どもと何をしたら良いのか」、「抱くと泣かれてしまう」など、子育てをしたくてもスムーズにできない状況がある。</p> <p>このため、母親の育児負担の軽減と父親と子どもの遊びや関わり方及び父親同士の仲間作りや交流を図ることを目的に、平成20年度から「お父さん講座」を実施し、今年度は、よりたくさんの父親の育児支援ができるように、不特定の父親を対象に「お父さんと遊ぼう」と題して事業展開をしている。</p> <p>【事業内容】</p>		
	年度	平成 20 年度	平成 21 年度
	事業名	お父さん講座	お父さんと遊ぼう
実施内容	月 1 回、土曜日に開催 前期(6～9 月)、後期(10～2 月)	月 1 回、第 2 土曜日に開催 年間事業として実施	
詳細	6/14 お父さんと遊ぼう(絵本を読む他) 7/12 簡単クッキング 8/9 お父さんと作ろう(割り箸鉄砲) 9/13 1、2 歳児の特徴と関わり方 2/21 手打ちうどんを作って食べよう ほか	6/13 救急法 7/25 すくすく祭り 9/12 親子レクリエーション ほか 10 月～3 月 絵本やクリスマス会、雪合戦 等を計画	
(4) 成果	①父子のふれあい・関わり場の提供 ②父親の子育て支援センターの利用や事業への参加の増加 ③父親同士の交流の場の提供 ④子どもの成長や子育ての大変さに父親が気づく場になった。		
(5) 成果詳細	①父子のふれあい・関わり場の提供。 「お父さん講座」を実施した当初は、父親と子どもだけでは参加できず、常に母親も一緒に参加していたが、回を重ねるごとに少しずつ父子の絆も深まり、母親が参加しなくても、父子で遊べるようになった。また、家庭においても、子どもが母親にべったりだったが、父親が積極的に子どもと遊んでくれるようになり、とても助かっているという母親からの感想が多くなった。 ②父親同士の交流の場の提供 7/25 に実施した「すくすく夏祭り」には、「お父さんコーナー」を開設し、子ども達にアートバルーンを作り、お父さん達も楽しそうだった。特に、市役所の職員の参加が多く、浜田市における父親育児のリーダー的な役割を果たしていた。		
(6) 備考	【課題】 ①より多くの父親が参加できる取り組みや事業内容にする。 ② 事業の継続 ③父親が様々な育児事業に参加できることを周知する。		

【資料】提出案件一覧表

回	取組名称（主な成果）	取組概要 等	主担当課
第1回（十八年下期）	本庁・支所間における公用車の相互使用制度 (経費節減 150万円)	H19年1月から、本庁支所相互に乗り付け、会議等で長時間駐車する場合に、その公用車を、他の職員でも利用できるよう管理体制を見直した。	管財課
	入札にかかる設計図書（仕様書）の電子データ配布 (市民サービスの向上)	従来、入札参加事業者がコピー・書き取りを行っていた設計図書について、事業者の経費（コピー代）や事務負担を軽減し、ペーパーレス化を促進するため電子データによる配布を行った。	管財課
	「浜田きらめき債」発行 (市民の行政参加意識の高揚、資金調達の多様化)	浜田駅北地区整備事業やCATV整備事業に活用するため、住民参加型市場公募地方債「きらめき債」を発行。2月19日に募集し、即日完売した。発行額2億円、5年債	財政課
	総合窓口サービスの開始 (市民サービス向上、事務時間の短縮等)	H18年12月から、戸籍届出にかかる手続きについてワンストップサービスを開始。従来、最大7か所かかっていた窓口手続きを、1・2か所の窓口移動で完了する体制とした。	総合窓口課
	戸籍、住民票等の申請書統合 (市民サービス向上、事務改善、経費節減)	年金や相続の手続きに当たり、戸籍・住民票・印鑑証明などに係る複数の申請書を1枚にまとめ、来庁者の記入軽減を図った。手数料や申請書管理が容易になり、印刷経費も削減された。	総合窓口課
	市民との協働による食育の推進 (健康意識の高揚、市民と行政の協働)	食育ボランティアや県、JA、JFなどの協力を得て、市内の子どもや保護者を対象に体験学習を開催した。また、「食育フェスタ」や「食育ネットワーク会議」などを通じて食育を推進した。	子育て支援課
	子育て応援隊の育成 (住民主体のまちづくり、組織のスリム化)	団体や個人など様々な立場で行われてきた子育て支援活動を「子育て応援隊」に名称統一。「子育て情報誌」の配布や研修会などを通じて、子育て支援体制の向上を図った。	子育て支援課
	児童家庭相談に関わる関係機関との連携 (業務の効率化、市民サービス向上)	法改正で児童家庭相談窓口が市町村業務となったことを契機に、市内関係機関と連携し、市内保育所への巡回相談を実施。発達相談の早期発見、児童虐待の予防・発見に努めた。	子育て支援課
	テレビ番組を活用しての情報発信 (地域情報の発信、経済効果)	合併1周年記念「BSふるさとみなさま劇場」の公開録画に当たっては、観覧希望が5,000通を超えるなど、収録の経済波及効果があった。また、番組は、地元の良さを再認識する機会となった。	文化振興課
	★GP★ 手話をコツコツ実践、窓口対応アップ (聴覚障害者の笑顔、来庁者との信頼関係の醸成)	聴覚障害者に接するため、H18年4月から、毎朝のミーティングで手話研修を開催。手話奉仕員を講師として、係員7名が「一日一手話」の習得に取り組んだ。	地域福祉課 当時；健康長寿課
	コンテストを突破し、国から3年間の事業費獲得 (事業費節減 3年で1億円近い事業費を獲得)	厚生労働省のコンテスト型委託事業にチャレンジし、3年間で1億円近い委託事業を受託した。「はまだ人材育成セミナー」をはじめ、多くの人材育成事業や企業支援が可能となった。	産業政策課 当時；産業企画課
	がんばる企業を支援する仕組みを導入 (新製品開発4件、特許取得1件、販路開拓1件を支援)	がんばる企業を応援するため、新製品開発や販路開拓に意欲的な企業に対するコンテスト式補助金「ものづくりスタートアップ事業」を導入した。	産業政策課 当時；産業企画課
中高大学生のボランティア活動のシステムづくり (子ども、学校、地域へのボランティア浸透)	青少年対象のボランティア情報誌やボランティアカードの発行を通じて、ボランティアが「はげみ」となるような仕組みづくりを行った。	生涯学習課	
浜田の水産加工業の活性化 (水産加工業の活性化、アジ塩干品生産量184%アップH13⇒H17)	「水産物のブランド化」に取り組んだ結果、従来のカレイを主体とした水産加工に加えて、マアジの加工業者が増加。マアジの原料供給地から生産地へと付加価値を生み出し、域外マネーを獲得	水産課	

第2回(十九年上期)	声かけ運動実施中! (接遇の向上、国際理解の推進)	H16年度から、朝礼において「職員の声かけ運動(あいさつ唱和)」を、全庁的に行っている。 当課では、H19年5月から3名の国際交流員の母国語(英、中、韓)によるあいさつ唱和を導入	地域政策課
	市民と協働!子育て情報誌「HAMACCO」作製 (市民協働と子育て意識の向上、情報誌発行)	子育て中の母親サークルリーダー等と協働して、妊娠から育児に係る行政支援、こころ協賛店など幅広い内容の「子育て情報誌HAMACCO」を作製・配布した。	子育て支援課
	★GP★ 「どぶろくの里」づくり (都市と農村の交流、新規雇用と需要の創出、特産品開発)	「おいしい空気、おいしい水、おいしい米、そしておいしい人」という弥栄自治区の地域特性を活かして、都市農村間交流の推進、特産品の開発等を手がけた。	弥栄支所産業課
	申告受付システム導入で残業減少、住民サービスも向上 (時間外勤務の半減、委託料の大幅削減 400万円)	H19年から申告受付システムなど新たに3業務のシステムを導入。事務効率が大きく向上し、市民の待ち時間短縮などの効果があった。(時間外勤務 前年3,895時間⇒2,040時間、職員△2名)	税務課
	思い込みを振り払え!当初課事務の効率化(固定資産税) (封入作業等に係る事務時間の大幅削減、郵送経費の節約)	従来、別々であった課税明細、納税通知(各25,000通)を一度に発送。また、明細書の問い合わせはがきを廃止した。事務量1,000時間、郵送経費122千円相当の削減効果	税務課
第3回(十九年下期)	★GP★ 地域づくりは地域住民の手で (3年間で広報誌36号発行、地域への自信と誇り)	H17年度から「市木地区まちづくり支援事業」を導入し、地域自治会が自ら行う地域活動、地域情報誌「はたる」(月刊)の発行等を支援した。	旭支所自治振興課
	チーム編成で効率化!「浜田市農林業支援センター」 (ワンストップの相談体制、全庁的な農業振興対策の実施)	H19年4月「農林業支援センター」を設立し、農業支援。新規認定農業者2名、農外企業新規参入1件、集落営農組織法人化3集落などの成果があった(報告時点)。	農林課
	移動図書館 LoveBook(ラブック)号出発 (読書推進、市民サービス向上)	市立図書館を利用しにくい地域の方のため、H19年12月から移動図書館ラブック号を運行。各自地区や公民館等を巡回し、図書利用の機会を提供している。	生涯学習課
	★GP★ 産業経済部組織検討プロジェクト (部内若手職員のモチベーションアップ)	部内若手職員により結成したプロジェクトチームにより部の組織体制を検討。ヒアリングや視察を行い、機構改革(案)を部長に報告。その案をもとに、機構改革を検討・反映した。	産業経済部
	庁内ネットワークを利用した源泉徴収票・給与支払報告書作成 (人事課・税務課・報酬等の支払関係課の事務量が軽減)	源泉徴収票・給与支払報告書の作成にかかる庁内の事務手続きを大幅に見直し、庁内ネットワークを活用したデータ入力のみとするなど、事務の軽減を図った。	税務課
	税の仕組みを分かりやすく市民に説明します! (市税だよりの発行、課内研修の充実)	税源移譲など地方自治体をとりまく複雑な税制を市民に分かりやすく説明するための「市税だより」発行や「市税出前講座」、「市報による広報活動」を実施し、市民に納税への理解と協力を求めた。	税務課
第4回(二十年上期)	学校用務員 共同作業で施設改修 (共同作業による経費節減と職員意識の高揚)	市内の学校用務員が共同で、金城中学校自転車置き場の改修作業を行った。普段は1人配置である用務員であるが、共同作業を通じて、意識の高揚や職員としてのスキルアップが図られた。	教育委員会 金城分室
	配水池壁面の有効活用による浜田市PR (広告料収入、浜田市PR)	竹迫配水池の壁面2面について、単に塗装するのではなく、広告媒体として、はまだ特産品センター(おさかなセンター)の広告を掲載。はまだのPRにも繋がっている。	水道部工務一課
	★GP★ 食文化の融合で観光PR～「海鮮うずめ飯」 (9月から市内8店舗で販売開始)	観光客誘致に欠かせない「食」について、有志によって活動している食フェスタ実行委員会で、食文化の見直しと掘り起しに取り組んだ。そうした中で、古くからの伝統的な郷土料理「うずめ飯」と新鮮な海の幸を融合させた「海鮮うずめ飯」を考案した。	観光振興課

第50回(二十年下期)	★GP★ 守り育てる地域医療…医師確保に向けてのプロジェクト (地域医療を守ろうという住民意識のめばえ、全国への情報発信)	地域医療を守るために、国保診療所医師とともに、関係機関との連携の下、タウンミーティングの開催や赤いげメールへの加入促進、HPとブログの開設などを行った。	地域医療対策課
	ごみカレンダーへの有料広告掲載 (広告料収入 252 千円/年)	ごみカレンダーの紙面の一部を広告欄として売り渡し、収入を確保した。 1 枠(縦4cm×横12.5cm) 21,000 円×12 枠(H21年4月～H22年3月)	廃棄物リサイクル対策課(環境課)
	無料職業紹介所の開設 (無料職業相談所の開設、職員の「ヤル気・意欲」の高揚)	世界的な金融危機に伴う不況が地域経済にも影を落とす中、職員が職員安定法に基づく講習を受講し、「無料職業相談所」を市役所内に開設した。(H21年3月～)	産業政策課
	住基カードをご存知ですか? (住基カード交付者4,610名 交付率7.6% H21年3月)	カード作成時に必要となる「写真」の無料撮影や、TVCMの活用、市ロビーでの周知DVD放映、カード発行に係る休日窓口開設により住民基本台帳カード(住基カード)の登録手続きを推進	総合窓口課、三隅支所市民課
	浜田の五地想ものがたり (食に関わる民間事業者との信頼関係、職員のヤル気アップ)	「食」を中心に部内が連携し、各種業務に取り組んだ。料理研究家を招き開催した地元食材を活用した調理イベントや食でもてなす観光地づくりセミナー等多くの方が参加されている。	観光振興課
第51回(二十一年上期)	議案書作成と配布の見直し (議会情報の共有化、議案作製に係る時間経費の削減、記録のデータ化)	H20年9月議会から、議案書等の配布対象を「議場出席者」に縮小(△100部)し、35万2千枚の用紙を削減した。同時に庁内HP上で資料提供を開始し、全職員が閲覧できる環境を整備	総務課
	★GP★ 救急患者等に対するサービスの向上、職員のスキルアップを目指した自主研修 (消防本部)	災害現場において、聴覚障害者と円滑なコミュニケーションを図るため、外部講師を招いて研修を開催。自主研修ながら、96%の受講率を達成した。	消防本部
	定額給付金給付事務・子育て応援特別手当給付事業 (迅速・正確・親切に事業費10億円、処理件数27,000件を執行)	全庁的な協力体制の下、自前の給付金管理システムの開発や申請書書式の簡略化などを行うことで、無事故・無事件で、県内で最も早い給付(初回振込)・定額給付金99%支給を達成	企画課
	長沢倉庫を活用して創業者支援～長沢倉庫の劇的リフォー・アター) (部局を超えた協働で起業家支援、市有財産の有効活用)	起業間もない事業者を支援するため関係各課と協力して、市有財産(長沢倉庫)を整備、事務所として貸付。創業者支援とともに、家賃収入の確保が図られた。	産業政策課
	住民が知恵しほり「健康で安心して暮らせるまちづくり」に挑戦 (住民の主体性が芽生え、今市地区まちづくり推進委員会が設立)	旭今市地区において、健康で安心して暮らせるまちづくりを推進するため、公民館が中心となった住民同士の会議や地域計画書の策定といった取組みを支援した。	旭支所市民福祉課
	父親の育児支援～お父さんと子どものふれあいを大切に～ (父子のふれあいの場提供、父親同士の交流)	父子の関わり方や父親同士の仲間作りなど、父親の育児支援を目的に、H20年度から「お父さん講座」を開催。子どもとの遊びや料理教室、子育て講演会、救急法の研修などを実施した。	子育て支援課

※「★GP★」は、最優秀賞を受賞した取組みです。